

## 令和6年度 研修講座「点訳の基本」

北海道札幌視覚支援学校附属理療研修センター

花尻 真由美

### 【本講座の概要】

#### 1 目標

点字・点訳の基本を身につけ、日々の教材作成等に生かすことができる。

#### 2 日時と内容（予定）

1. 第1回 7月2日(火) 語の書き表し方

2. 第2回 9月3日(火) 文節分かち書き

3. 第3回 10月2日(水) いろいろな文書の書き方

4. 第4回 12月9日(月) 点訳の基礎（パソコン点訳の配慮点、自動点訳ソフト活用のポイントなど）

### 「点訳の基本」1 語の書き表し方

#### 1 点字の特徴

ア. 墨字は点と線でできているが、点字は6点の組み合わせによってできている。点字では、前置点を付けることによって、一つの記号が数字、外国文字、音符などいろいろな体系で用いられている。

イ. 墨字は視図形であり、点字は触図形である。墨字は視野に入る何文字かを同時認識することができるが、点字は指で触れたところを継次的に認識していく。

ウ. 墨字は横書きと縦書きを使い分けることができるが、点字はすべて横書きであり、読む場合は左から右へ、点字器で書く場合は右から左へ書き進む。

エ. 墨字は文字の大きさや字体などを変えられるが、点字は文字の大きさが一定で形の変化がない。

オ. 墨字は漢字仮名交じり体系であるが、点字は仮名文字体系である。そのため、語の区切り目を明らかにする意味で、分かち書きをして書き表す。

このような特徴から、点字はレイアウトが制限され、書かれたものがかさばるなどの制約がある。しかし、この6点点字は指による識別が容易で、かなり速く正確に読み書きすることができ、触読文字としてきわめて優れている。

#### 2 かな使い

点字は、現代かな使いに準じて書き表す。

すなわち、墨字の原文を「かな」で書き表すとおりに、点字に置き換えるということである。その際、漢字を正しく読むことが大切である。思い込みや発音のくせにも注意しなければならない。

## 1. 現代かな使いとの相違点

ア. 助詞の「は」「へ」は発音どおり「ワ」「エ」と書く。

イ. 墨字で「う」と書くウ列・オ列の長音は長音符を用いて書く。

例：空気（クーキ） 東京（トーキョー） そのような（ソノヨーナ）

そうだろう（ソーダロー）

※注意1 かなにして「う」にならない場合は長音符を使わずにそのかなの通りに書く。

例：映画（エイガ） お姉さん（オネエサン）

注意2 「う」と発音する語は「う」と書く。

例：子牛（コウシ） 湖（ミズウミ）

※注意3 動詞の語尾は「ウ」を用いる。

例：思う（オモウ） 食う（クウ）

※補則：上記の規定に関わらず原文に長音記号（ー）が使われているときは、それに従って長音符で書く。

例： はんたーい（ハンターイ） えーと（エート）

【演習1】 次の語のうち、長音符を使うのはどれですか？

- A. お父さん
- B. お母さん
- C. 牛乳
- D. 閏年
- E. 大きい
- F. 放り投げる
- G. 憩う
- H. 移行
- I. 行こう
- J. やったあ

## 2. 現代かな使いとの一致点

ここでは特に「じ・ず・じゃ・じゅ・じょ」と「ぢ・づ・ぢゃ・ぢゅ・ぢょ」の使い分けについて確認する。

ア. 原則としてザ行を使う。

例：地震（ジシン） 頭痛（ズツー） 世界中（セカイジュー）

イ. 次の場合はタ行を使う。

○2語の複合によってタ行の後半の語頭が濁音に変わる連濁の場合

例：底力（ソコヂカラ） 三日月（ミカヅキ）

○タ行同音が続くことによって後ろの音が濁る場合

例：縮む（チヂム） 続く（ツヅク）

【演習2】 次の語は、ザ行とタ行のどちらを用いて書きますか？

- A. 絆
- B. 著しい
- C. 湯飲み茶碗
- D. 蛇口
- E. 身近
- F. 我慢強い
- G. 手続き
- H. 鼻血
- I. 築く
- J. 気付く

### 3 数字

1. 数字は数符（.）を前置し、四桁まではひと続きに書く。万・億・兆などの位はその発音をかなで書く。

例：5 4 3 0 0（.5 マン .4 3 0 0）

2. およその数で、数が重なるときは、それぞれに数符を前置して書く。中点や読点は省略する。

例：二、三（.2 .3） 七、八万（.7 .8 マン）

3. 数を含む語は、原則として数字で表し、数字に続く語（助数詞など）は、続けて書く。ただし、数字に続く語がア行か、ラ行のときは、第一繋ぎ符（..）を挟んで書く。

例：一枚（.1 マイ） 三十センチメートル（.3 0 センチメートル）

5 0 円（.5 0 ..エン） 一列（.1 ..レッツ）

4. 原文で数字が使ってあっても、次の場合はかなで発音通りに書く。

ア. 数量や順序の意味が薄れた語

例：一般的（イッパンテキ）

イ. 数字部分を和語読み（日本の昔からの数え方）する語

例：ひとつ（ヒトツ） 2 0 日（ハツカ）

ウ. 人名や地名などの固有名詞に使われる語

例：八戸市（ハチノヘシ） 一郎（イチロー）

【演習3】 次の語は数字とかなのどちらを使いますか？

- A. 青二才
- B. 二の腕
- C. 十字路
- D. 四季折々
- E. 三泊四日
- F. 十月十日
- G. 徒競走で1番になった。
- H. 今日は一番嬉しい日だ。
- I. 資料が一部多い。
- J. 一部の人の意見だけをきかないでください。

#### 4 アルファベット

- 1. アルファベットの前に外字符（：）を書く。二文字以上の場合でも、一つの外字符に続けて書く。
- 2. 大文字は、該当する文字に大文字符（．）を前置して書く。
- 3. ひと続きに書くアルファベットが全て大文字の場合は、外字符の後ろに二重大文字符（．．）を書く。
- 4. ひと続きに書き表すべき一語中のアルファベットと数字、または数字とアルファベットは続けて書く。

例：1 0 0 cm（：．1 0 0 ．：．）

- 5. ひと続きに書き表すべき一語中の仮名の後ろに続くアルファベットは続けて書く。

例：何m（ナン ．：）

- 6. ひと続きに書き表すべき一語中のアルファベットに続く仮名は、第一つなぎ符（．）をはさんで続けて書く。

例：Yシャツ（：．Y．．シャツ）

- 7. アルファベットの後ろに自立可能な言葉が続くときは、1マスあけて書く。

例：Eメール（：．E メール）

#### 5 まとめ

- 1. 点字のかな使いは現代かな使いに基づいているが、助詞の「は」「へ」及びウ列・オ列の長音の書き表し方は現代かな使いと異なっている。
- 2. 数及び数を含む言葉は、数符を用いて書き表すが、数量や順序の意味が薄れた語句や固有名詞、及び和語読みの数は、かなで書き表すことを原則とする。
- 3. 数字やアルファベット・かなが混在する言葉については、誤読の恐れがないように書き表すことが大切である。